

# OYAMACHI LIVING LAB ANNUAL REPORT 2025



## OYAMACHI LIVING LAB ANNUAL REPORT 2025

発行日：2026年2月22日

発行元：東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科 コミュニティマネジメント研究室

編集：コミュニティマネジメント研究室 学生編集部

住所：〒158-0082 東京都世田谷区等々力 2-18-15 2階 おやまちリビングラボ

連絡先：<https://sakakuralab.com/contact/>

研究室公式 HP：<https://sakakuralab.com/>

Instagram：<https://www.instagram.com/community.lab.tcu>

Facebook：<https://www.facebook.com/community.lab.tcu>



OYAMACHI  
LIVING LAB



## 目次

- P.03 はじめに
- P.05 おやまちリビングラボは、暮らしをデザインしていくまちの研究拠点
- P.06 -特集- ラボ×商店街 ハッピーロード尾山台クリスマスマーケット 2025
- P.10 おやまちリビングラボを取り巻く研究プロジェクトや活動
- P.16 おやまちリビングラボでのゼミ活動
- P.22 おやまちプロジェクト
- P.24 ラボメンバー紹介
- P.26 おやまちリビングラボ研究業績 2025

## はじめに

リビングラボは、生きていくためのラボである。  
そう定義し直してみたくなる一年でした。

異なる立場の人たちの共創によるプロジェクトがいくつも走り、  
それらが互いに響き合い、意想外の軌跡を描いていく。

2025年、開設4年目を迎えたラボでは、プロジェクトが渦のように絡み合い、  
大きなうねりに育っていきました。

その渦とうねりをつなげ、進めていく原動力は、  
私たちの持っている「良く生きる力」でした。

それは、本当に欲しい暮らし方を自分たちで実行する「文化実践」の力。

習慣や制度、サービスの指示通りに生きるのではなく、  
自分たちの心が満たされ、生き生きと関わり合えるように、  
いまの暮らし方をちょっと工夫したり、ルールや常識を組み替えたり、  
時には困難な状況をも「遊び」に変えたりしながら、  
より生きている実感が得られるライフスタイルを創造していくこと。

これが、ウェルビーイングデザインの真髄といってもよいかもしれません。  
私たちには、そんな「良く生きる力」がある。

その力を引き出し、つなぎ合わせ、まちを変えていく仕組みがリビングラボです。  
一人ひとりから流れ出る湧き水がやがて支流となり、  
それらが合流して力強い本流をつくり、やがて新たな土壌や地形を生み出していくように。

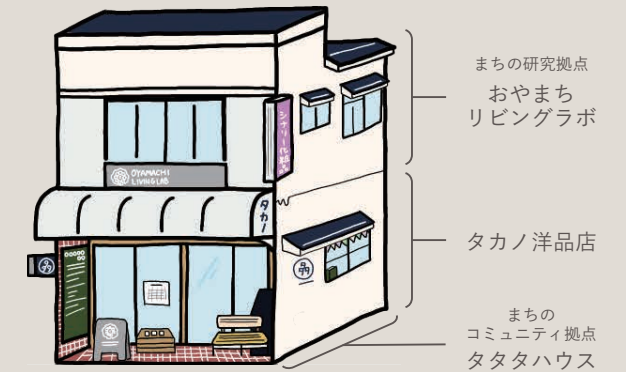
未来から振り返った時、新しい時代の潮流の最初の一滴といえるかもしれない、  
私たちのこの一年の小さな試行の記録を、ぜひご覧ください。

東京都市大学 都市生活学部 教授  
坂倉 杏介



## おやまちリビングラボは、暮らしをデザインしていくまちの研究拠点

おやまちリビングラボは、地域の暮らしの中で様々な可能性を探り、本当に実現したい暮らしや社会をデザインしていく「まちの研究拠点」です。ハッピーロード尾山台商店街に面しているタタタハウスの2階に位置しており、研究活動の関係者をはじめ、地域住民や企業の方など多様な人が集い、その出会いやつながりから新たな活動やプロジェクトが生まれています。また、私たちは「ウェルビーイング」を単なる健康な状態ではなく「身体的・精神的・社会的によい状態」と捉え、個人や社会・地球全体の暮らしがウェルビーイングになっていくことを目指して、あらゆるテーマのプロジェクトを進めています。



### 数字で見る

## おやまちリビングラボの2025年

暮らしをデザインしていくまちの研究拠点は、誰が訪れ、どのように使っているのか？2025年1月～12月の集計データをもとに、「おやまちリビングラボ」の特徴を紹介します！

📅 1年間で  
オープンしていた日

**312** /365日

年間の稼働率は85%。毎日訪れたいくなる”第2のお家”のようなラボ。オーナーの美恵子さんと雄太さんがあたたかく迎えて下さるおかげで、私たちは日々研究活動に取り組んでいます。

👤 1年間で  
ラボを利用した人

**3,863** 名

ラボを訪れるのは、1日で平均12人。研究活動する人だけではなく小さな赤ちゃんからお年寄りの方まで。暮らしと研究が隣り合わせの空間には、笑い声や時には泣き声が聞こえてきます！

👣 そのつもりは無かったのに  
ふらっとラボを訪れた人

**92** 組

タタタハウスの1階は、地域の方々がふらりと立ち寄るオープンスペース。だからこそ、そのつもりはなかったのに「2階はラボなんですか!?!」と驚きながら見学していく方も多くいらっしゃいます。

🎓 同時並行に進む  
研究プロジェクト数

**11** プロジェクト

国家プロジェクトや企業との共同研究、暮らしに根付いた活動まで。ラボやラボのまわりでは、多種多様なテーマの研究プロジェクトや活動が同時並行に進んでいます。

👥 1年間で  
日々起こるカイギ数

**242** 件

学生たちの小規模な打ち合わせから企業や行政の方が集まるワークショップまで。ウェルビーイングな暮らしを実現するための”カイギ”が、時には同時多発的に行われています。



# - 特集 - ラボ × 商店街 ハッピーロード尾山台クリスマスマーケット 2025

2025年11月29日-30日。おやまちリビングラボとハッピーロード尾山台商店街が連携し、クリスマスマーケットを試みました。歩行者天国の商店街に、マーケットや子どもが遊ぶパーク、川場村の木を使ったワークショップや演奏が広がりました。立ち止まっておしゃべりする姿や、ベンチでくつろぐ姿はまるで、まちのなかにあるリビングのよう。商店街という街路空間がまちの居場所として機能する可能性や、未来への広がりを感じる2日間となりました。



オーナメントは店主さんの持ち寄り!



子どもも大人も、みんな一緒に!



座って本を読んだり、くつろいだり



オリジナルロゴが入る川場村木材のベンチ



素敵な音楽に思わず足を止めたくなる!



イベント全体を巡るスタンプラリー

01

# 多様なステークホルダーが主体的に関わり合う ウェルビーイング商店街を目指して

with 尾山台商栄会商店街振興組合、群馬県川場村、  
東京都市大学都市生活学部 都市プランニング研究室・住宅生産研究室

## “これからの商店街は、どうあるべきだろう”

おやまちリビングラボは、クリスマスマーケットをはじめとした様々な取り組みを商店街などと連携して試み、多様なステークホルダーが主体的に関わり合うウェルビーイングな商店街を目指しています。今年度は対話を通じ、商店街や大学、行政、地域住民といった様々な立場がつながる手ごたえを得られたとともに、ウェルビーイングな商店街を目指すには更なる関係性づくりが大事であることが見えてきました。ここでは、取り組んだ内容について紹介します。

2025年度に実施した主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハッピーロードのリビング化に向けた研究(ラボ×商店街)・・・商店街をまちのリビングのように使いこなす試み・現状調査</li> <li>・石畳コモンズの醸成に向けた研究(ラボ×商店街)・・・石材の現状調査・維持管理を支援するデジタルデータ作成</li> <li>・ひとと暮らしが伝わる広報事業(商店街)・・・新しいWebメディアの立ち上げ・Instagramの運用</li> </ul>
-------------------	--



尾山台で暮らす高校生にインタビュー

## 暮らす人の目線で、尾山台を見つめ直してみたら？

＜ハッピーロードのリビング化に向けた研究＞  
リビングのような商店街を目指すにあたり、尾山台の日常を知ることからスタート。犬と暮らす男性、大学生の子どもを持つ母親、高校生など、日頃から商店街で暮らす人々に着目し、それぞれの立場や価値観に立ちまちを歩き、観察やインタビュー調査を行いました。調査を通じて見えてきたのは、人とまちとの関わり方が一様ではなく選択肢があることが、暮らしの心地よさやウェルビーイングにつながっているという点でした。多様な関わり方が共存できる余白こそが、まちのリビング化において重要な要素であると考え、クリスマスマーケットでの空間づくりにも取り入れました。

## 木のぬくもりは、どんなところから来るのだろうか？

＜ハッピーロードのリビング化に向けた研究＞  
リビングのような空間をどうつくるか考えたとき、私たちは木材に注目しました。木のぬくもりは、知らない人同士の間にも静かな余白をつくります。そんな木材との縁を探して、私たちは川場村の森を訪れました。そこに広がっていたのは資源としての木材ではなく、命ある生き物としての木でした。慈しみ育てて誰かの暮らしへ届けようとする、林業の人々の営みと願いが息づく森でした。そんな愛おしい木たちを尾山台に持ち帰り、ベンチやキーホルダーをつくりました。それが川場から来た木だとわかると、途端に会話が弾み、川場の森とのつながりが日々、まちに広がっていきます。



森林組合による伐採を見学

## そもそもホコ天について、どう思っているの？

＜ハッピーロードのリビング化に向けた研究＞  
商店街をまちのリビングにすることを目指してアクションを積み重ねていますが、そもそも「ホコ天時間の拡張を地域住民が望んでいるのか」「拡張するとしたら何時がいいのか」など住民意識調査や、現状の交通状況を調査しホコ天時間を拡張した際の影響も予測しなければなりません。調査の結果、住民の85%がホコ天時間拡張に賛成しており、休日午後の希望が多く交通への影響も少ないことが分かってきました。この調査は都市生活学部末繁研究室を中心に行われ、リビングラボだからこそそれぞれの得意を生かし合いながら、地域の未来とともに模索することができています。



調査結果を商店街関係者に報告

## 石畳ってどのように維持管理されているの？

＜石畳コモンズの醸成に向けた研究＞  
ショッピングプロムナード事業により1988年に生まれ変わったハッピーロード尾山台商店街は、尾山台地域のシンボルとして約40年にわたり親しまれてきました。しかし、石畳舗装の街路は長年の使用により劣化が進み、持続的な維持管理が課題となっています。そこで、これまでの維持管理の方法や石材の在庫状況を調査するとともに、今後の補修計画を支援するため石畳全体のデジタルデータを作成しました。石畳の景観が続いてきたのは商店街と世田谷区土木部の協定に基づく双方の努力あってのことで、様々な負荷がかかっている実情がわかってきました。石畳が、地域全体で大切に手入れをする「コモンズ」になっていくように、今後も継続して大学や地域住民も維持管理に貢献できるような仕組みを検討、実装していきます。2026年1月には様々な人たちが石畳に関心をもち情報共有できるコミュニティ「石畳ファンクラブ」を立ち上げました。



商店街が確保している石材の数を確認



360°カメラで7mおきにデジタルスキャン



104箇所の損傷状況を特定

石畳ファンクラブへの参加はこちら



### Project01 Member's Comment

昭和末頃から毎月商店街の皆様と打ち合わせを重ねショッピングプロムナードの設計をしていきました。開通式から30数年を経て再び石畳プロジェクトに参加することとなりました。未来に向け、愛着を持って使われ続けるハッピーロードにしていければと思います。  
用・強・美 (Utilitas Firmitas Venustas) を備えた、ローマ街道のように！

世田谷区土木部 技術指導担当 小山 英俊さん



商店主や学生などでメディアづくり

## ひとと暮らしが伝わるメディアの形って？

＜ひとと暮らしが伝わる広報事業＞

多くの方に親しまれている商店街を一つのメディアとして捉えることによる影響力の大きさに着目しました。各個店が商品やサービスを発信するだけでなく、商店街全体で尾山台での暮らしの可能性を伝えます。商店主を中心に人柄が伝わる新しいWebメディアを立ち上げ、Instagramで商店街を活用した豊かな暮らしを提案しています。

詳細はこちら



### Project01 Member's Comment

尾山台地域にとって東京都市大学は大切なステークホルダーであるにも関わらず、これまでの商店街と大学の関係は限定的だったように思います。多くの学生に地域に関わる経験をして貰いたいですし、先生方には尾山台をフィールドに研究をして貰いたいと考えてます。そして、尾山台を地元と思ってもらえるような関係をもっと築きたいです。

尾山台商栄会商店街振興組合 理事長 高野 雄太さん



# おやまちリビングラボを 取り巻くプロジェクトや活動

おやまちリビングラボは、まちを舞台に様々なプロジェクトを行っています。商店街から公園、教育や子育て、医療、福祉など、様々なテーマからウェルビーイングな暮らしを目指しています。国家プロジェクトや企業との共同研究、地域のコミュニティ活動まで、まちのあちこちへ広がる多彩なプロジェクトの詳細は、各ページからご覧ください。

## 01

多様なステークホルダーが  
主体的に関わり合う  
ウェルビーイング商店街を目指して

“これからの**商店街**は、  
どうあるべきだろう”

P.08 へ

## 02

サーキュラーエコノミーの  
実現に向けた地域の LivingLab に  
おけるサービスデザイン

“シェアリングカルチャーを育てる  
「遊び」の試み”

P.12 へ

## 03

おやまちヘルスケアcommons  
リビングラボ (OHcCLL) の  
共同運営

“**不登校**から考える、  
学びと生き方の多様性”

P.12 へ

## 04

ウェルビーイングの  
継続的な状態・資質計測と  
活用方法に関する研究

“子どもの**ウェルビーイング**  
コンピテンシーを高める”

P.13 へ



## 05

海士町関係人口の  
ウェルビーイングに関する研究

“「**よその地域**」に関わると  
得られるしあわせとは?”

P.13 へ

## 06

Child Care Commons 2.0

“Co-育ち”のための子どもの社会関係資本の構築と  
社会価値創出 リビングラボアプローチによる体験のデザイン

“「**Co-育ち**」でみんなが  
ウェルビーイングになる社会へ”

P.14 へ

## Community Activities

おやまちプロジェクト

“あなたの「**やりたい**」を叶え、  
暮らしをより豊かに”

P.22 へ

## Seminar Activities

おやまちリビングラボでの  
ゼミ活動

“正解のない海で、  
個性豊かな**仲間**とともに”

P.16 へ

## 08

玉川野毛町パークらぼ

“百年後も愛される**公園づくり**を  
住民とともに”

P.14 へ

## 07

地域のウェルビーイングを高める  
小売店向けシステムの  
サービスデザイン

“**Happy Road**で考える  
「**お店**」の未来”

P.14 へ

## 02

# サーキュラーエコノミーの実現に向けた地域の LivingLab におけるサービスデザイン

with 株式会社メルカリ R4D

詳細はこちら



### “シェアリングカルチャーを育てる「遊び」の試み”

利便性が重視され、使い方が固定化される現在のサービス。私たちは暮らしの中でサービスを「遊ぶ」という視点で捉え直し、新たな可能性を探っています。今年度は住民が持ち寄ったモノの物語を共有し、物々交換や物語付きでメルカリ出品を行う「メルカメ」を発展させ、受け身に置かれやすい立場の学生が、自らの視点で遊びつくす実践に挑戦。サービスを想定外に使いこなす中で新たな楽しさを見出しました。現在は、こうした実践を誰もが遊べる形にするための体系化を進めています。



諦めていた気持ちを胸に遊びを実践

#### Project02 Member's Comment

地域とそこに関係する人だからこそできる「メルカリを使った遊び」を見つけ、実践できる場づくりに価値を感じています。遊びを考えると、メルカリは生活を豊かにする一手段として位置づけることで、思いがけない洞察や発想を得ることができます。こうした視点の転換は、地域の人々の生活をより楽しく豊かにするうえで、とても重要なことだと考えており、その価値について皆さんと対話したいと考えています。

株式会社メルカリ R4D リサーチャー 草野 孔希さん



## 03

# おやまちヘルスケアコモンズリビングラボ (OHcCLL) の共同運営

with 慶應義塾大学ヘルスコモンズセンター、学び舎トーカ、おやまちプロジェクトほか

詳細はこちら



### “不登校から考える、学びと生き方の多様性”

OHcCLL (オークル) は、アカデミアや大学病院、リビングラボなど地域の産学官民が連携し、誰もがウェルビーイングに暮らせる社会の実現を目指しています。今年度は医療分野の課題から「不登校の未来」をテーマに、医師や当事者家族、教育関係者へのインタビューやワークショップ(WS)を実施しました。その結果、不登校は家庭・学校・地域など複数の要因が関係し、立場の異なる関係者が信頼のもとでつながる場や、学びの選択肢を広げる取り組みが重要だと分かりました。



不登校に関わるステークホルダーが集うWS

#### Project03 Member's Comment

世界中で学校に通わない選択をする子どもたちが増えています。多様な生き方を大切にしている豊かな未来社会をどうつくればよいでしょうか？ 私たちはアカデミアの知見を社会で活用することで、一人ひとりに適切に関わるチームづくりに取り組んでいます。

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート 特任教授 岸本 充さん



## 04

# ウェルビーイングの継続的な状態・資質計測と活用方法に関する研究

with NTT 社会情報研究所、世田谷区立尾山台中学校

詳細はこちら



### “子どものウェルビーイングコンピテンシーを高める”

日本の教育政策では、ウェルビーイングがコンセプトのひとつとして掲げられ、学校教育への導入が議論されています。そこで私たちは、子どもたちが将来にわたり自律的・協働的にウェルビーイングを実現する学びづくりに取り組んでいます。尾山台中学校を舞台に、自分や他者のウェルビーイングを考え、協働する力を育む教育プログラムの設計と実践に加えて、学びを評価する仕組みづくりなど、学校現場の主体的な実践を支援する環境設計も行っています。



他者理解を深めるグループワークの実施

#### Project04 Member's Comment

自分自身の教育観とウェルビーイングの考え方が同じで、教育活動の様々な場面で助けられました。学校では自分と他者のウェルビーイングを考えるカードゲーム「Super Happy Birthday」を始め、道徳授業や行事の目標設定、教員研修など様々な場面で触れる機会を増やすことを心がけました。これからもぜひ取り組みたいです。

世田谷区立尾山台中学校 教諭 加瀬 光太郎先生



## 05

# 海士町関係人口のウェルビーイングに関する研究

with 島根県海士町、武蔵野大学しあわせ研究所

詳細はこちら



### “「よその地域」に関わると得られるしあわせとは？”

人口減少、そして移動社会が本格化する中、地域と多様なかたちで関わる「関係人口」が増えています。本研究では、島根県海士町をフィールドに、地域に関わる人々がどのようなウェルビーイング (WB) を実現しているのかを調査しています。今年度は関わり方の深度や複数の領域におけるWBを測る尺度を作成し、アンケート調査を実施しました。131名から回答を得た結果、関わるほどに、より幅広く高いWBを実感していることなどがみえてきました。



2025年度のアmbasダーキックオフMTG@都内

#### Project05 Member's Comment

海士町の関係人口施策「オフィシャルアmbasダー制度」自体も2年目を迎え、会員数増加やプレイヤーの多様性、プロジェクトの創発などから、どんどん成長しているなと感じます。来年度以降、この研究がどのように成長するか予測が付きませんが、楽しみです！

博士後期課程 永野 真代



## 06

# Child Care Commons 2.0

“Co-育ち”のための子どもの社会関係資本の構築と社会価値創出 リビングラボアプローチによる体験のデザイン

from JST ムーンショット型研究開発事業 目標9、PM 細田 千尋（東北大学）

詳細は  
こちら



## “「Co-育ち」でみんながウェルビーイングになる社会へ”

Child Care Commons (CCC) は、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）に着目し、血縁関係のない第三者が信頼関係に基づいて子どもの育ちに関わる仕組みを構築するJSTの研究プロジェクト。核家族化の進行により孤立しがちな子育てに、多様な担い手が関与することでウェルビーイングな社会の実現を目指しています。地域の親子と第三者による「チーム家族」の実践が4年目となる今年度は、関係を持続させる支援の在り方を検討し、都心部で働くワーカー向けのワークショップも実施しました。



チーム家族が集まり合同で新年会を開催

## 07

# 地域のウェルビーイングを高める 小売店向けシステムのサービスデザイン

with 富士通株式会社デザインセンター、株式会社コンセント

## “Happy Roadで考える「お店」の未来”

本研究では、効率や収益性が優先され、人と人との関係性が生まれにくいリテール（小売）の現状を背景に、お店を資本主義の「市場」ではなく、地域の人々がフラットにつながる「市場」として再考します。リテールの可能性を多義的に捉え直し、お店を軸に新しい価値交換の仕組みを探りました。商店街でのフィールドワークやタタタハウスでの活動に参加して調査を行い、7月には『リリテールインスピレーションブック』を制作。更に関係者を集めたイベントを開催し、今後の可能性を議論しました。



7月にキックオフイベントを開催

## 08

# 玉川野毛町パークらぼ

with 世田谷区みどり33推進担当部公園緑地課、自然教育研究センター

詳細は  
こちら



## “百年後も愛される公園づくりを住民とともに”

「玉川野毛町パークらぼ」は、区民が公園の運営に参加し緑豊かな環境を守り育てながら様々な活動ができる、百年先を見据えた新しい公園運営のかたちを目指す取り組み。2021年始動当初から坂倉教授が伴走し、区の間支援組織が区民主体の活動を支える体制が整えられてきました。いよいよ2026年夏に拠点施設が完成し全面開園を予定。様々な利用者が訪れるようになると、標準的で無難な運営を望む声も上がるかもしれませんが、この公園から豊かな暮らしが育まれるよう、対話と試行錯誤を重ねながら伴走を続けます。



植物の手入れ方針も住民参加で議論

# 学会発表を通じた理論と実践の往復

私たちは、まちを舞台に行われている様々な研究を学会で発表し、新たな知見を求めながら進めています。ここでは、今年度行われた学会発表に参加したメンバーのコメントをお届けします。発表の詳細はP.26をご覧ください。

## 6月28 - 29日 日本デザイン学会第72回春季研究発表大会（札幌市立大学）



デザインプロジェクトの成果発表

デザインに関わる多様な方との交流を通じ、研究のアドバイスをもらうだけでなく、これまでやってきた活動の良さにも気づくことができました。これからは実践と理論を往復しながら進めていきたいと思った時間でした。

修士1年 久保 圭輔



学会に参加した多様なメンバー



自分には縁遠いと感じていた学会。いざ行ってみると、フィールドは違えど語られる問題意識や面白さは共感するものばかりでした。遠い誰かの発表に潜む「同じなにか」が、深めてくれる問いがあります。

SHIPYARD株式会社 黒川 成樹さん

## 9月6 - 7日 地域活性学会第17回研究大会（島根県立大学）



自身の研究について発表する様子

学会発表は学生のうちに達成したいチャレンジのひとつでした。日々多様な研究に取り組む人々がいることを肌で感じられ、そうした積み重ねが社会を変えていくのだと思うと、胸が高鳴るような感覚がありました。

学部4年 渡邊 ひさぎ



ただ自分の発表をする場だけでなく、初めて訪れる地域で食を楽しんだり、普段はなかなか会えない九州大学の方々との交流も出来ました。想像をはるかに超える学びと刺激に満ちた充実した2日間でした。

学部4年 丸山 華穂



美味しい地酒「死神」に出会いました

## 10月5 - 8日 ServDes'25（ハイデラバード工科大学）



研究プロジェクトのCCC「チーム家族」を題材に、相互ケアを促進するデザインについて発表。日本ほど社会インフラが整備されていないインドにおけるサービスデザインの意味を考えたり、身寄りのない子どもの支援をする現地の学生と議論する経験は貴重でした！

東京都市大学 都市生活学部 坂倉 杏介教授



Uberが移動の命綱。条件交渉は大変！



\ Seminar Activities /

## おやまちリビングラボでのゼミ活動

“正解のない海で、個性豊かな仲間とともに”

おやまちリビングラボでは、学部生のゼミ活動も行われています。ゼミ生のみならず、まちの住人や企業、行政といった異なる主体が同じフィールドに溶け合うこの場所はまるで海そのもの。ゼミ活動はそこでの航海とも言えます。学生は仲間とともに舵を切り、時には周囲がつくり出す波に乗り、自由に漂うことができます。私たちは、リビングラボに広がる広大なネットワークの中で偶発的な出会いや縁から生まれる新しい価値やコミュニティの形を追求しています。

個性あふれた  
仲良しな11期(3年生)



次のページから研究室3年生と一緒に  
今年度のゼミ活動を振り返ってみましょう！



ゼミ生の相棒  
ベース君



## Monthly Highlights

APR

writer  
ももは



### これぞ坂倉研のチームビルディング！

緊張に包まれてスタートした2025年度のゼミ。初回からこれまでの人生についてさらけ出し合ったことでお互いの壁が壊れ、安心して発言できる場づくりの基礎を築けました。好調の走り出し！

みんなのこれまでの  
知る機会って  
なかなかないよね！



遊びも学びも  
全力！！



JUN

writer  
けいと



### 本気で遊んで、本気で学ぶ

今年の新歓合宿は湯河原へ。体育祭で普段は見えない一面が垣間見え、大盛り上がり！BBQではより一層距離が縮まり、笑顔あふれる時間に。2日目は子どもの居場所づくりの現場を訪ね、学びも得られる充実の2日間になりました。

この時期もまだ  
緊張してたね



writer  
ゆみ

MAY



### あらためまして、はじめまして

少しずつラボに慣れ始めてきた5月。私たちの活動拠点である尾山台を舞台に、今年度のはじめの一歩として現状分析を行いました。フィールドワークを経て、尾山台が「第二の故郷」に一歩近づいたのではないのでしょうか！



writer  
ほのか

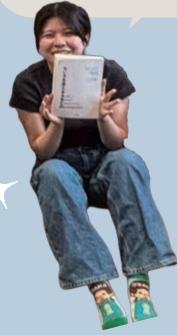
### JUL

## 尾山台のアツさ、注ぎました。

納涼祭では、学生が商店街の方々と一緒に生ビールの販売を行いました！お話しする中で、初夏の暑さに負けない尾山台のアツい魅力を改めて実感できた2日間となり、ビールも大・完・売！！



なんだか、賢くなれた気がするんだっ



### SEP



## 忘れるわけない夏が、あの町にある

「新たな価値観を得て人生を豊かに」そう掲げ、幕を開けた鹿児島県さつま町での夏合宿。町とつながりのある学生を筆頭に一から合宿を企画し、自分とは違う考え・生き様に触れるべく、さつま人の暮らしに密着しました。たった一日を共に過ごしたただけなのに溢れ出す " なんかいい "。上手く言葉にはできないこの想いを限られた時間で形にし、最終日は、さつま人のなんかい暮らし展を開催。想いを言葉にして初めて、いつもの日常にこそ地域の誇りの源がある、そう心から思えた夏でした。

だんだんみんなの素が見えてきた！



### AUG



writer  
ももこ

## WA になって読もう

はじめての輪読会。監訳・出版社の方と共に出版前の書籍の内容を議論するという貴重な経験をしました！読んで、考えて、話して、聞いて…をくり返す中で、自分なりの書籍への考えが少しずつ形になっていく感覚に輪読の面白さを実感…！

荒波にだって負けません！



writer  
かりん

### NOV



writer  
こうすけ

## 商店街で生まれた新たな日常の景色

商店街をリビングのように使いこなす実験として試みたクリスマスマーケット。6月からイベントの構想を考え始め、「リビング化とは何か」「どうしたらクリスマスマーケットをきっかけに日常を変えることができるか」などたくさん漂流しながらも迎えた本番。私たちが大切にしたい「ようこそ」「かかわり」「くつろぎ」という3つの思いに呼応するように、マーケットでは新しい出会いや、ワークショップでは弾む会話が…。来場者が自分だけの心地よい時間を満喫している景色が感動的でした。

ポスターもゼミ生がデザイン！



この景色が見たかったんだっ！！



実際に渡したプレゼントたち

### DEC

writer  
かの



## よい一年は、ひとからひとへ

10期から11期へ、ゼミ代表がバトンタッチ。引っ張りながらも寄り添い、私たちが安心して挑戦できる場をつくり続けてくれた先輩たち。その存在に、心から感謝しています。新体制は代表2人（とあ・かの）。11期らしく、並んで進んでいこうね！

### OCT



writer  
あやか

## 私たちの愛をプレゼント

坂倉先生 Happy Birthday! サプライズで坂倉先生のお誕生日をお祝いし、多様な先生の姿をモチーフにしたオリジナルケーキと、11期の写真で作った先生のモザイクアートTシャツをプレゼントしました。11期のクセの強い愛の表現に先生は少し困惑しながらも本心は喜んでくれるはず(!?)

頼もしくなってきたなあ





writer  
みさき

## 卒論は1人じゃない!

見えてきた!と思ったら途端に分からなくなるのが卒論。人に話して、考えて、助け合いながら、どうにかカタチにしていく。1人の問いから始まるけれど、研究は1人じゃない!

FEB



writer  
めい

## みんなで作り上げた一冊ここにあり

今年から大きく体勢を変えたアニュアル作成。編集部一同必死に食らいつきました。壁にぶつかるたび周りに支えられ、これが共創!?という手応えを少しずつ感じられるようになりました。少しでも多くの人の心に残りますように!

JAN

こんなこともあったよね~



## 2025 年度行事一覧

### APR

- ・新年度プレゼミ
- ・初回ゼミ
- ・ホコ天ゼミ
- ・駐車場ゼミ

### MAY

- ・新歓 BBQ
- ・玉川野毛町パークらぼ訪問
- ・おやまち PJ 懇親会
- ・1Q 成果発表会
- ・メルカメ~アイテムを持ち寄る編~

### JUN

- ・11期ご飯会
- ・WBを学ぶ場づくり・人づくり
- ・新歓合宿@湯河原
- ・日本デザイン学会 学会発表

### JUL

- ・ゆうきさんによる WS 講座
- ・卒業研究 第1回中間審査会
- ・修士研究 中間発表会
- ・大学院ゼミ合宿@東伊豆町
- ・石畳 PJ 石材数え
- ・WBを学ぶ場づくり・人づくり
- ・ハッピーロード尾山台納涼祭り
- ・富士見台中・尾山台中 SHB WS

### AUG

- ・SHB コモビフェス出展
- ・海士町インターン+研究視察
- ・輪読会

### SEP

- ・地域活性学会 学会発表
- ・坂倉研夏合宿 in さつま町
- ・川場村訪問
- ・学位授与式
- ・新渡戸中SHB WS
- ・新・才能の芽

### OCT

- ・深沢中 SHB WS
- ・坂倉先生お誕生日のお祝い
- ・卒業研究 第2回中間審査会
- ・尾山台フェスティバル

### NOV

- ・海士町インターンシップ報告会 @上智大学
- ・メルカメ~アイテムを持ち寄る編~
- ・ハッピーロード尾山台 クリスマスマーケット 2025

### DEC

- ・研究室説明会
- ・CCC イベント (ふるまいの試運転#02) @渋谷PXU
- ・東京都未来を創る商店街支援事業 活動報告会
- ・ゼミ引き継ぎ式
- ・メルカメ~失敗を持ち寄る編~
- ・大掃除

### JAN

- ・メルカメ~私の挑戦 PJ 編~
- ・CCC イベント (新年会)
- ・メルカメ~語り尽くす編~
- ・OHcCLL WS イベント @シティラボ東京
- ・山野小 SHB WS

### FEB

- ・メルカメ~私の挑戦 PJ 編~
- ・修士研究 最終審査会
- ・卒業研究 最終審査会
- ・おやまちリビングラボ 会議フェス 2025-2026

来年度はどんなことが待っているんだろう!



## ラボでの学びを語り合う

日々活動しながら学んでいくおやまちリビングラボの学生たちは、一体何を感じているのか。ここ数年間ラボで過ごす大学院生がこれまでのを少し振り返りながら、みんなで「ラボでの学び」を語り合ってみました!

——— 修士学生のみなさんが、学部生から大学院に進むに至った経緯と当時の思いを聞かせてください

**岸川** 早くからウェルビーイング (WB) に興味があり、院進もするつもりで研究室を選びました。3年生のときにラボが開設し、多種多様なプロジェクト (PJ) が試行的に持ち込まれ、学生もいろんな PJ にとにかく参加していました。がんばる同期を助けようとあちこち首をつっこんでいたら、4年生になる頃に坂倉先生が「楽は自分のやりたいことに力を入れてやったらいい」と。そこから WB 研究を中心に据え責任をもって進める意識がはっきりしました。

**久保** 3年生のときは商店街のハッピー化計画 PJ が始動した年で、尾山台を舞台に小さな実践をたくさんやりながら、自分の向き不向きに気づく日々でした。そんな中、宮崎県新富町のスタディツアーをつくる機会があり、心からワクワクする新しい旅の形に出会えた!と実感するとともに、研究を通じて自分のやりたいことの武器ができるかもしれないと思い院進を決意しました。

**滝本** 2年生のときにラボのリノベに参加し、居合わせたひとたちで床やら壁やらをつくる不思議な場についてしか引き込まれ、3年生では PJ に全力投球、4年生では一歩引いてラボ全体を眺めてました。グラレコの実践を通じて共創の基盤というのに徐々に意識が向いていき院進しましたが、ロールモデルが不在で研究も難しく、どう過ごせばよいか本当に悩んでました。



——— 大学院生としてラボで学んでみて、どのような気づきや変化がありましたか

**岸川** これまで4年間、自分が中心となって関わる PJ や活動を進めていくうえで、関わる人たちがいきいきと活動できることを大切にマネジメントしてきました。どうしたら主体的に参加してもらえるかに悩むこともありましたが、やっていく中で、楽をするより、頼り・頼られる関係性や、一人ひとりに役割があることが大事だということに気がつくきましたね。

**滝本** 修士からプラットフォーム (PF) 研究に参加したけどこれが難しく、修士1年の間は結構しんどかったですね。ただちょうどその頃にラボを使いやすく整えることを始めて、外で見たり学んできたことをラボに持ち帰って実践してみることができたのが、めちゃくちゃありがたいなと感じてました。PF研究は愛着のあるラボという場所が続くためにも大切で、これまでのラボでの体験を全部ひっくり返して、最後は修士研究に流れ着いたって感じですね。

**久保** 顔の見える関係性をすごく大事にしたくて。いつもここを使わせてもらって、美恵子さんに圭輔大丈夫?って気遣ってもらっているからこそ、ラボは整えたいと自然に思うし、研究をしても地域の人の顔が浮かんでくるので、その人たちのために届けたいという気持ちで進めています。お世話になったから、恩返ししたい感覚ですかね。

——— 博士後期課程1年のみなさんは、修士学生の話を聞いてどう思いましたか

**天野** 予期せぬことがたくさん起こるラボで、三者三様に成長している様子が伝わってきました。ルールメイキングされた中ではなく互いに気かけ合うことで、少し遠回りしながらも数年間かけて、知らず知らずたくさんものを蓄積していたんだな~と感動しました!

**山野** ラボという場の面白さに気づき始めたところなので、出会いや関わりがどう発展していくか楽しみです!

# おやまちプロジェクト

with おやまちプロジェクト、タタタハウス

## “あなたの「やりたい」を叶え、暮らしをより豊かに”

おやまちプロジェクトは、東京都世田谷区尾山台周辺地域を舞台に商店街・小中学校・大学・地域住民など、多様な立場の人々が立場の垣根を越えて集うコミュニティです。

まちの誰かの「やりたい」を起点に、共に考え行動しながら、暮らしを自分たちの手でより豊かにすることを目指して活動しています。今年度も、タタタハウスを拠点に複数の活動が行われ、さらに地方へも活動の幅を広げていきました。ここでは、自分たちの「やりたい」から始まった5つのプロジェクトを紹介します。

詳細はこちら



好きなことを、好きな場所で

## おやまちプロジェクトの主な5つの活動を紹介

### おやまち暮らしの保健室

日々の健康相談や多世代交流ができる、誰もが気軽に立ち寄れる、暮らしに寄り添う居場所です。

### おやまちカレー食堂

地元農家の野菜でつくるカレーを毎月提供し、多世代が交流できる、地域に開かれた子ども食堂です。



チラシはこちら



ホコ天で行われている「コーヒーと血圧計」



Instagramはこちら



食を通じて地域にひらかれたカレー食堂

### おやまだい部

好きなこと(趣味)でつながり主体的な活動を生む、地域に顔見知りを増やすまちの部活動です。



Instagramはこちら



美術部の活動の様子

### にっぽんタタタ

豊かな暮らしは日本の各地にある。そんな各地との出会いと豊かさをシェアし合うプロジェクトです。



イベントのブログはこちら



尾山台納涼祭りでの出店の様子

## tatata laboratory

tatata laboratoryは、学生がまちのなかで「やりたいこと」を仲間と試行錯誤しながら実現する“実験場”がコンセプトの学生コミュニティです。水曜日にタタタハウスで運営するカフェ「tatata cafe laboratory」は、4年目を迎えた今年度、山形県金山町のお土産開発に挑戦。大学生2人がMCをする「めぐてらじお(仮)」の他、全国各地の地域との関わりを持つ学生たちによる「ワカまちまっくんぐプロジェクト」が発足し、世田谷トラストまちづくりの助成を受けて、まちとの関わりを紹介するイベント企画を行っています。



学生が作ったお菓子を提供



さつま町の食材でご飯会



Instagramはこちら



## おやまちリビングラボ つながり地域MAP

おやまちリビングラボは、さまざまな地域とご縁があり、それぞれの特色あるまちづくりに関わらせていただいています。今年度おやまちリビングラボが関わった地域を紹介します！



- |              |              |              |               |
|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 01. 北海道 網走市  | 07. 宮城県 山元町  | 13. 愛媛県 内子町  | 19. 鹿児島県 阿久根市 |
| 02. 北海道 紋別市  | 08. 福島県 相双地域 | 14. 愛媛県 伊方市  | 20. 鹿児島県 さつま町 |
| 03. 北海道 黒松内町 | 09. 静岡県 静岡市  | 15. 愛媛県 八幡浜市 | 21. 鹿児島県 志布志市 |
| 04. 秋田県 湯沢町  | 10. 和歌山県 田辺市 | 16. 愛媛県 西予市  | 22. 鹿児島県 鹿屋市  |
| 05. 山形県 金山町  | 11. 島根県 全域   | 17. 愛媛県 宇和島市 |               |
| 06. 山形県 小国町  | 12. 愛媛県 伊予市  | 18. 宮崎県 高原町  |               |

# ラボメンバー紹介

おやまちリビングラボは、教員1名、アシスタント1名、特別研究員4名、大学院生6名、4年生13名、3年生11名の計36名の研究室メンバーを中心に運営しています。

<p>#焼肉愛 #目黒さん推させていっただいす Project No. ALL 指導教員 <b>坂倉 杏介</b> Sakakura kyosuke</p>  <p>いろんなことが渦のように影響あって流れていくエネルギーに満ち溢れた一年でした!</p>	<p>#夜型人間 #トマトジュース 研究室アシスタント <b>大谷 麻梨乃</b> Otani Marino</p>  <p>心にゆとりを持って、穏やかに過ごせた一年でした。</p>	<p>#シャクティマツト #娘に身長抜かれる Project No.06 特別研究員AF <b>荒川あゆみ</b> Arakawa Ayumi</p>  <p>様々なお仕事をさせていただいた一年でした。「受け給う(うけたもう)」の心で取り組みました!</p>
<p>#静岡市在住 #ヒゲダンに沼ってます D3 <b>天野 浩史</b> Amano Hirofumi</p>  <p>目まぐるしくバタバタしつつも、大事なところに戻ってきたような一年でした。</p>	<p>#研 #剣 Project No.05 D3 <b>永野 真代</b> Nagano Mayo</p>  <p>ラボ一年目、初めの第一歩な一年でした!</p>	<p>#リズム #あわい Project No.01 D3 <b>山野 靖暁</b> Yamano Yasuaki</p>  <p>いい間合いを大切に過ごす一年に。</p>
<p>#ラジオプロデューサー #音楽依存症 Project No.06 4年 <b>飯塚 恵</b> Izuka Megumi</p>  <p>就活も卒論も大学四年間も収まる場所に落ち着きました。</p>	<p>#大晦日ボーイ #丸亀製麺 4年 <b>五十嵐 稜</b> Igarashi Ryo</p>  <p>先を考えるほど、今を生きる大切さを感じる一年でした。</p>	<p>#キックボクサー #パン屋さん Project No.03/04 4年 <b>糸瀬 立佳</b> Itose Rika</p>  <p>一人の人として成長を感じられた一年でした。ここでの成長を糧に自分らしく社会人もシャキッと頑張ります。</p>
<p>#歩く世界平和 #mango Project No.04 4年 <b>寺田 言生</b> Terada Kotoha</p>  <p>角が丸くなり、可も不可もあり、縁が続いた一年でした。</p>	<p>#湘南 T-SITE #タコスは世界を救う Project No.02 4年 <b>松本 梨沙</b> Matsumoto Lisa</p>  <p>知識や技術を極めた結果自分の武器にできたことが増えた年。</p>	<p>#多趣味にも程がある #極・感覚派 Project No.05 4年 <b>丸山 華穂</b> Maruyama Kaho</p>  <p>とにかく自由に自分のやりたいことを自分のペースで突き詰めた一年間でした。</p>
<p>#クラフトビール愛好家 4年 <b>昇 日向子</b> Noboru Hinako</p>  <p>なによりも健やかに生きることが大切で、自分の身体こそが一番の資本だと気づいた一年。</p>	<p>#早起きは三文の徳 #白米 lover Project No.01/05 3年 <b>太田 かりん</b> Ota Karin</p>  <p>心が動く思いがけない景色や人との出逢いが未来につながる自分の核をつくってくれました。</p>	<p>#睡眠は人生 #デザインとは Project No.01/03/06 3年 <b>小島 永愛</b> Kojima Toa</p>  <p>ラボの人間、リビングラボ、プロジェクト。知りたいことも知れたことも多く、知への意欲に満ちた一年でした。</p>
<p>#加藤シゲアキ #生涯アイドルオタク Project No.01/04/07 3年 <b>鈴木 彩夏</b> Suzuki Ayaka</p>  <p>人や場所との新しい出会いに心がときめいた一年間でした。</p>	<p>#timelesz #マリノス Project No.01/04 3年 <b>中嶋 航輔</b> Nakajima Kosuke</p>  <p>様々なプロジェクトや活動に取り組み駆け抜けた一年でした。</p>	<p>#扁桃炎とさすがに相棒 #Viva Beer!! Project No.01/07 3年 <b>日原 穂香</b> Hihara Honoka</p>  <p>点だった想いや、経験が線となり、それらが連なり一本の物語として紡いできた一年でした。</p>

# #自分を表すキーワード / 参加プロジェクト / 所属 / 名前 / 2025年度を表す漢字一文字の解説

<p>#ホームサウン探し中 Project No.06 特別研究員AF <b>河村 勇希</b> Kawamura Yuki</p>  <p>何をやるかよりも、誰とやるかが重要だと心の底から感じている一年でした。</p>	<p>#ランニング #sumika Project No.01/03/06 特別研究員AF <b>平福 恵津子</b> Hirahuku Etsuko</p>  <p>今年度のモットーは、なににごにも楽しく取り組むでした!</p>	<p>#MTH #博士課程修了 Project No.01/08 特別研究員AF <b>三木 裕子</b> Miki Yuko</p>  <p>尊さに満ちた日々の景色に心満たされて、この上なきラボデザインでした。</p>
<p>#希望 #感謝 Project No.04 M2 <b>岸川 楽</b> Kishikawa Gaku</p>  <p>遠くの空を見上げて、わくわくする未来をたくさん想像して、たくさん挑戦した!たくさん成長も感じた!気分上々!</p>	<p>#運と縁と恩 #芋焼酎でよか晩 M2 <b>滝本 美奈代</b> Takimoto Minayo</p>  <p>6年間の集大成となる年でした。起承転結の"結"、助け合いの"結"、たくさんの結に感謝の気持ちでいっぱいです。</p>	<p>#ベ이스ターズ #月1ペースで地方へ Project No.05 M1 <b>久保 圭輔</b> Kubo Keisuke</p>  <p>チームで創っていくことが多かった中で、自分の未熟さや活動の新しい可能性に気づくことができました!</p>
<p>#旅行好き #九州はあと熊本県だけ Project No.04 4年 <b>小野 祥一郎</b> Ono Shoichiro</p>  <p>さつま町はじめ、プライベートでも九州にたくさん行った年でした!</p>	<p>#ライブ命 #フツ軽マン 4年 <b>佐藤 未来</b> Sato Miku</p>  <p>プライベートでも研究室でも色々な所に動いて行って新しい繋がりが出来たり今まで会った人にも会えた一年でした!</p>	<p>#実はボルダラー #本屋に住みたい Project No.06 4年 <b>塚原 一珠</b> Tsukahara Ichizu</p>  <p>社会に出ても続いてほしい縁を育てた一年でした。</p>
<p>#金山愛 #塾では声がかいす 4年 <b>米山 舞香</b> Yoneyama Maika</p>  <p>地域と季節を巡って、人に巡り逢って好きなことを深めた一年。</p>	<p>#ハッピーロード最高 #予定みっちり Project No.01 4年 <b>渡邊 ひさぎ</b> Watanabe Hisagi</p>  <p>商店街の広"報"!学会の成果"報"告!今までやってきたことが"報"われ、次に進みたい道が見えてきた年でした。</p>	<p>#落ち着きたいときは木に登ります 4年 <b>後藤 美咲</b> Goto Misaki</p>  <p>人間の弱さを愛せるようになった一年。</p>
<p>#脊椎トーク #今日もかのは元気です Project No.01/06 3年 <b>近藤 佳乃</b> Kondo Kano</p>  <p>関わり続けることでしか見えない景色があり、ラボに居ることそのものが価値だと実感した一年。</p>	<p>#毎日センチメンタル #ユッケ Project No.01/03/06 3年 <b>佐藤 桃羽</b> Sato Momoha</p>  <p>すこしずつ、周りに自己を開示できた一年間。</p>	<p>#サッカー観戦 #関係性コレクター Project No.01/05 3年 <b>新谷 慧人</b> Shintani Keito</p>  <p>一年を通してたくさんの人と出会い、つながりが広がった一年でした。</p>
<p>#アメリカ生まれ埼玉育ち #自然界隈 Project No.01/02 3年 <b>細田 萌々子</b> Hosoda Momoko</p>  <p>地域のこともプロジェクトのことも自分の将来も、たくさん考えて少しずつ前に進めた一年でした。</p>	<p>#めいさん #バスケ愛 Project No.01/04 3年 <b>村田 萌衣</b> Murata Mei</p>  <p>自分と向き合うことで未熟さを痛感したと共に、さらに熟していきたくも思えた一年でした。</p>	<p>#甘いもの食べたい #七夕生まれ Project No.01/04/07 3年 <b>八鍬 佑美</b> Yakuwa Yumi</p>  <p>自分が何を感じ、考え、大事にしたいのかを考えることが多く、自分のことを深掘りした一年でした。</p>

# おやまちリビングラボ研究業績 2025

## 論文

国内 岸川楽、坂倉杏介、加瀬光太郎、横山実紀、渡邊淳司  
「中学校におけるウェルビーイングの状態・コンピテンシーの評価  
——世田谷区立尾山台中学校での評価事例——」

「Journal of Wellbeing」Vol.1、ウェルビーイング学会、2025年

## 学会発表

6月28 - 29日 日本デザイン学会 第72回春季研究発表大会 (札幌市立大学)

「地域住民主導でC2Cマーケットプレイスを遊びつくすデザイン」  
草野孔希、坂倉杏介、黒川成樹、蓮池めぐみ、松本梨沙

「関係人口の創出に寄与するツアーの設計とその効果に関する研究」  
久保圭輔、坂倉杏介

「連続的に活動を生み出すリビングラボプラットフォームのメカニズム  
～豊かな共創プロジェクトを生み出し続ける神山つなぐ公社を事例として～」  
木村篤信、坂倉杏介、高田友美、三木裕子、滝本美奈代、渡邊ひさぎ、原口唯、長島洋介

9月6 - 7日 地域活性学会 第17回研究大会 (島根県立大学)

「ボランティア組織における担い手の世代交代と目的意識の継承に関する研究」  
渡邊ひさぎ、坂倉杏介

「島根県隠岐島前地域の『大人の島留学』における若者の活躍を可能にする環境要因の分析」  
丸山華穂、坂倉杏介

「地域の主体形成を促進するコーディネート手法 静岡県熱海市の事例分析から」  
天野浩史、坂倉杏介

「海士町による教育モデルの海外展開と教育効果の検証」  
山野靖暁、坂倉杏介

「関係人口のウェルビーイングに関する一考察 島根県・海士町のアンバサダー制度を事例に」  
永野真代、青山達哉、坂倉杏介

「地域づくり組織における長期的・間接的アウトカムを特定するプログラム開発と有効性検証」  
滝本美奈代、坂倉杏介

8月26-27日 Ageing in the Right Place in Asia Symposium 2025 パネルディスカッション参加

海外 Creating public spaces to promote casual care,  
Kyosuke Sakakura

9月30日-10月3日 OpenLivingLab Days 2025 (Andorra la Vella)

The Reflexive Mechanism of a Living Lab Platform for Self-sustaining Co-Creation Activities  
Atsunobu Kimura, Kyosuke Sakakura, Tomomi Takada, Yuko Miki, Minayo Takimoto, Hisagi Watanabe,  
Yui Haraguchi, Yosuke Nagashima

10月6-8日 ServDes'25 (Hyderabad/India)

'Team KAZOKU': Fostering Mutual-Care Relationships among Citizens through Non-Parent Participation in Childcare.  
Kyosuke Sakakura, Yuki Kawamura, Rie Tanaka, Ayumi Arakawa, Rika Ishitsuka

12月2-5日 IASDR2025 (Taipei/Taiwan)

From Research Subjects to Active Players: Playful Active Mastery Research for Value Co-creation on C2C Platforms  
Koki Kusano, Kyosuke Sakakura, Naruki Kurokawa

## 書籍

『はじめてのリビングラボ』



様々な価値観が対立する社会のなかでともに実験をし、答えを探す。希望のデザインアプローチ。

『まちづくりを仕事にする』



まちに活動の連鎖を生み、まちの大きな変化につなげるプロが伝える、リアルなノウハウを集結。

『The Paradox Of Proximity』掲載



メンタルウェルビーイングを高める交流の発生について、各国と日本でのリサーチをまとめたレポート。

## 編集後記

ここまで、おやまちリビングラボを中心に展開される研究プロジェクトや活動など、様々な取り組みについてご覧いただきありがとうございました。

ラボで起こるすべての取り組みは、どうしても成果ばかり目が向けられがちですが、決して平坦な道のりではありません。喜びや楽しさだけでなく、不安や葛藤なども分かち合い、時には遊びながら試行錯誤を重ねてきました。学生中心に制作したこの冊子も、まさにそのようなプロセスで進めてきました。研究やプロジェクトに関わる方や興味のある方、ふとしたきっかけでこの冊子に手を伸ばして下さった方にも、ラボに関わる一人ひとりが感じた「想い」をこのアニュアルレポートから少しでも感じていただけたら幸いです。

もし機会がありましたら、私たちの取り組みを是非のぞきにきてください。おやまちリビングラボでお待ちしています。